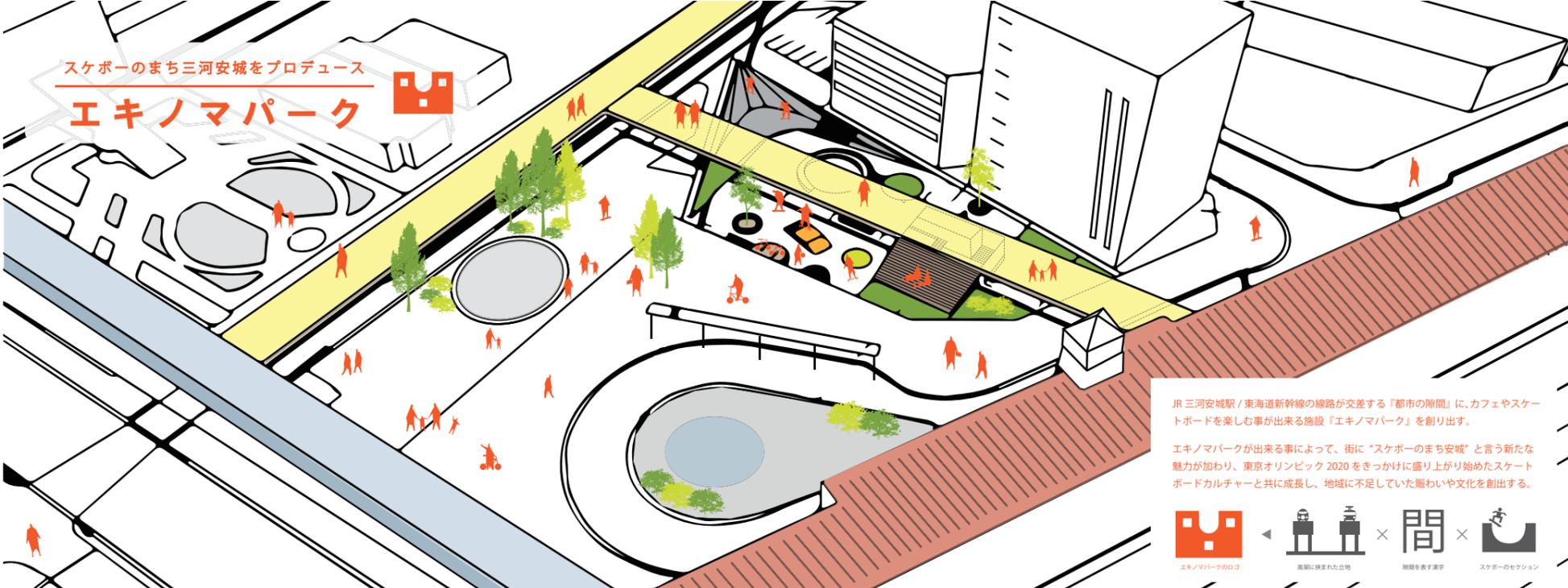


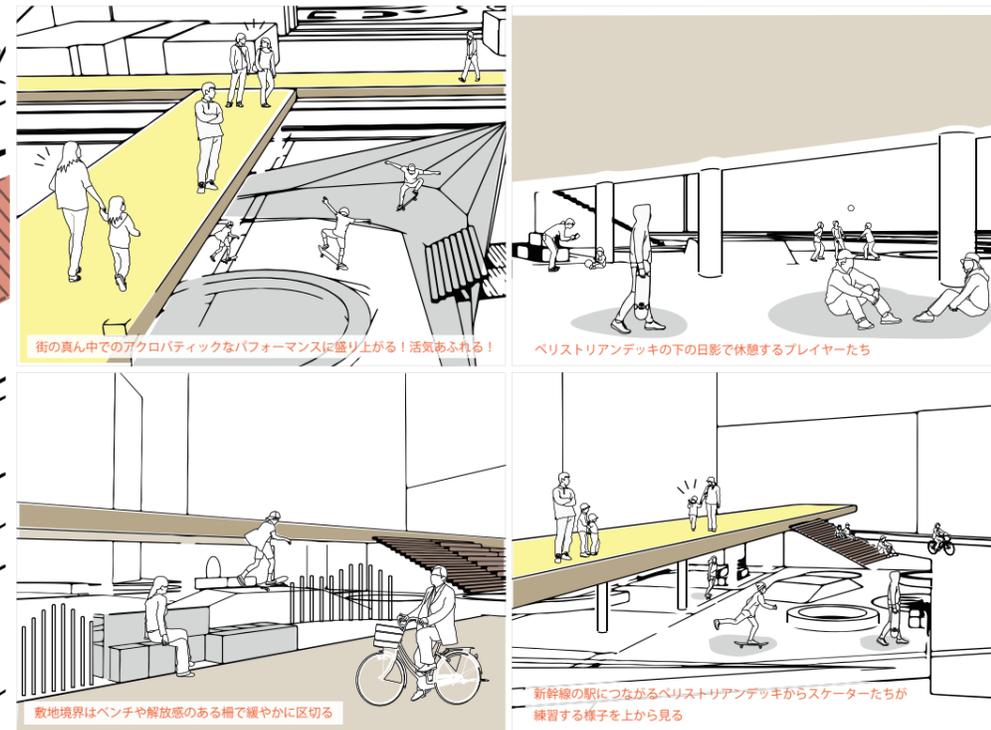
スケボーのまち三河安城をプロデュース

エキノマパーク



JR三河安城駅 / 東海道新幹線の線路が交差する『都市の隙間』に、カフェやスケートボードを楽しむ事が出来る施設『エキノマパーク』を創り出す。

エキノマパークが出来ると、街に“スケボーのまち安城”と言う新たな魅力が加わり、東京オリンピック2020をきっかけに盛り上がり始めたスケートボードカルチャーと共に成長し、地域に不足していた賑わいや文化を創り出す。



街の真ん中でアロパティックなパフォーマンスに盛り上がる！活気あふれる！

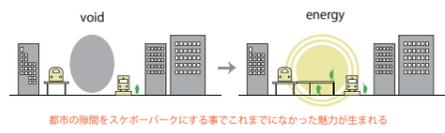
ペリストリアンデッキの下の日影で休憩するプレイヤーたち

敷地境界はベンチや解放感のある柵で緩やかに区切る

新幹線の駅につながるペリストリアンデッキからスケーターたちが練習する様子を上から見る

都市の隙間でスポーツを！街を変えるエネルギーを創出！

対象地は JR 三河安城駅 / 東海道新幹線の線路が交差する狭間にある。周辺はビルや駐車場に囲まれ寂しい印象を受ける場所だが、住宅が少なく、多少騒音を出しても許容される環境である。『都市の隙間』に新たにスケボーパークをつくることで、スポーツで街を変えるエネルギーを創出する。



都市の隙間をスケボーパークにする事でこれまでなかった魅力が生まれる

敷地周辺の状況



1 周辺にはビルや駐車場が多いため、騒音や騒音などが発生しやすい。2 アリーナ建設予定地。3 敷地周辺には住宅が少ないため、騒音や騒音などが発生しやすい。4 敷地周辺にはビルや駐車場が多いため、騒音や騒音などが発生しやすい。5 敷地周辺には住宅が少ないため、騒音や騒音などが発生しやすい。6 JR三河安城駅と東海道新幹線の駅に接するペリストリアンデッキ。

ストリートスポーツ「スケートボード」について

現在の日本での『スケートボード』の社会的地位
東京オリンピック 2020 より正式に競技種目となり、日本人選手の活躍もあり徐々に注目されつつあるスポーツである。しかし、日本ではスケートボードに対してネガティブなイメージが強く、あまり好意的に受け入れられていない現状がある。「ベンチや階段、手摺などの公共の構造物に傷をつける」「滑走音による騒音問題」「街路で滑ると通行人と接触しそうで危険」「やんちゃな感じにみえるファッション」など。
スケートボードは『誰かがスゴイ技をやれば賞賛する』『カッコイイパフォーマンスの追及』など、仲間意識を持ち、勝ち負けを超えた価値観を大事にする「境界線」のないスポーツである。

競技としての『スケートボード』

競技の観点から見ると「パーク」と「ストリート」の2種類に分かれ、繰り出したトリックの難易度やスピードなどを評価する。



セクションの種類



『スケートボード』の歴史

- 1940 第一世代 (スケートボードの発祥) 雑誌があるように、1940年代のカリフォルニアで木の板に車輪の付いた遊びが始まりとされている。60年代後半には、日本でもおなじみのスケートボードシューズブランドの VANS シューズが設立され世界中のスケートボードをサポートした。
- 1970 第二世代 (サイドウォーカーフボード) 技術革新によってパーツに変化が出てきて更に発展。これにより競技としてのスケートボードも広まり、スケートボードを専門にするメーカーやそこで契約するプロのライダーが生まれたりと、スケートボードは一気に世界でブームとなる。『オールドスクール』と今では呼ばれるサーフィンのスタイルでコンクリートで滑るというスタイルが確立。
- 1980 第三世代 (トリック時代の幕開け) 街中の公共施設などを利用してトリックを遊ばせながらスケートボードをするという、『ストリート・スタイル』が始まる。特に商業と融合したスタイルは若者たちに『スケーター』という一つのファッションスタイルとしても確立していく。
- 1990 第四世代 (ストリートの時代) この頃に入ると完全にストリート・スタイルが確立。トリックの複雑化、道具・靴の多様化、アパレルの発展等により、日本でもスケーターファッションが流行。ストリート・カルチャーというカテゴリーが作られ日本の若者達を刺激した。ファッション&ビジネス・アイテムの1つになったスケートボードを、純粋に考え直そうという当時の中心選手達が結束。協会と共に、日本のスケートシーンの再構築が始まる。一過性であったスケートボードが、ようやく日本人に浸透していく。
- 2000 第五世代 日本人の海外進出が進む。海外のメディアにも登場する頻度は高まり、コンテストでも好成績をあげる選手が輩出する。
- 2010 第六世代...? 2015年9月28日。かねてよりローラースポーツとして提案されていた2020東京五輪への追加種目候補としてスケートボードが正式に決定。あわせてWSJ内にスケートボード委員会が設立。2016年8月4日、リオで開催されたIOC国際オリンピック委員会の総会で承認され、スケートボードが東京2020オリンピックの種目正式に決定。

三河安城が抱える課題と地域活性化計画

三河安城駅周辺は、昭和63年の新幹線駅三河安城駅の開業を契機に、土地区画整理事業により誕生し、本市の副都心として、そして西三河の玄関口「新三河文化の創造」拠点として「まち」と「ひと」とともに成長してきた。昼夜問わず多くの居住者・就労者が生活するまちとなっているが、人々が交流するための機能や仕掛けが十分でないため、まちの賑わいや人々の活動を感じにくく、まちの持つポテンシャルを十分に発揮できていないという課題がある。
安城市では、安城市は三河シーホースと協定を結び、スポーツによるまちづくりの力を入れようとしている。2026年に三河安城駅の近辺に、アイシンアリーナを建設予定である。バスケットボールというスポーツ活動を通じて、安城市とシーホース三河株式会社が相互に連携協力することにより、地域の活性化に寄与することを目的としている。



安城市と『スケートボード』の関係

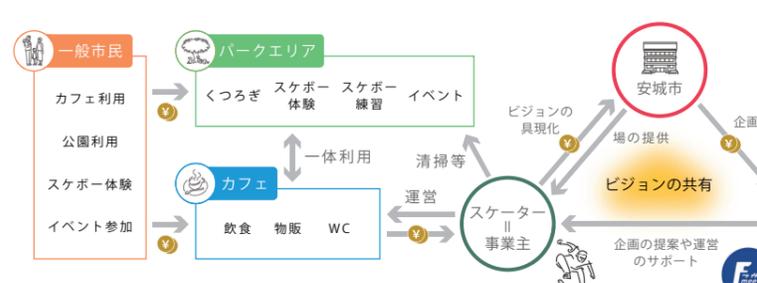
・安城市では市民からの要望で『市内に子供でも安心して楽しめるスケートボード場を整備してほしい』『禁止という看板は沢山ありますが、できる場所を作ってほしい』『無料で夜間も使えるスケボーパークがほしい』といった声が寄せられている。

・スケートボードを愛知県碧南市で盛り上げたいと、2020年3月に『碧南スケートボードパーク』がオープン。全国初となる24時間無料で利用可能なスケートパークである。



提案

事業スキーム
三河安城をスポーツのまちとして一緒に盛り上げよう！という共通の目標を持ち、スケーター、地域住民、まちづくり団体、行政、が相互に協力・理解し合う関係性を構築する。スケーターたちの社会貢献により地域住民の理解が得られ、一般市民の『ストリートスポーツ』への偏見が少なくなり、『マナーを守ってスポーツを楽しむ』というスケーター自身の意識向上にもつながれば、『スケボーパーク』を拠点としてまちながらスケートボードができるエリアが増えていき、スケートボード本来のストリートスポーツとしての楽しみ方が出来るようになる。



動線・エリア計画

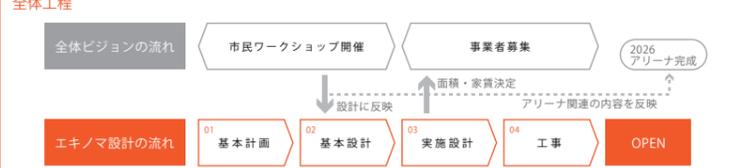
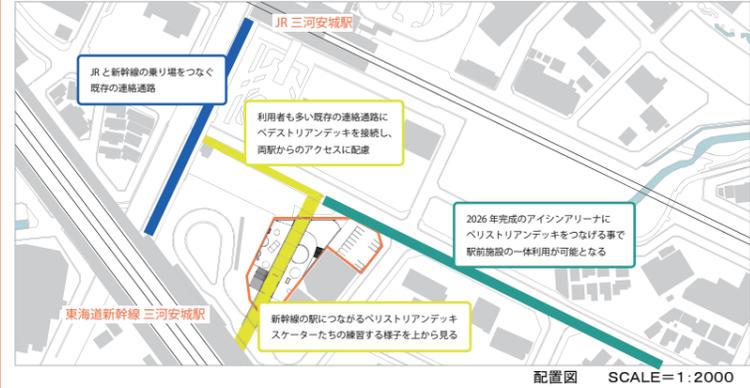


2026年アイシンアリーナの完成を見据え、駅から人々をアリーナへ誘導する、ペリストリアンデッキを整備する。コンコース(渡り廊下)からのアイシンアリーナまでを1本のペリストリアンデッキでつなぐことで、スケボをプレイしている風景を眺めながら、観客たちは会場へとワクワク感を高めながらアイシンアリーナへと向かう。
「アイシンアリーナ」は国際大会も見据えた大規模なスポーツ施設であるのに対し、「エキノマパーク」は地域に寄り添うスケボーをきっかけとしたコミュニティの場として機能する。

- JRと新幹線の乗り場をつなぐ既存コンコース
- スケボーパーク上部を横切りペリストリアンデッキと新幹線の駅とを接続するデッキ
- アイシンアリーナとコンコースをつなぐ1本のペリストリアンデッキ

設計提案 スケボーパーク『エキノマパーク』

『都市の隙間』に、スケボーパーク、スケボー用品の販売・レンタル+カフェ営業を行う店舗、といった人々が集まる機能をあたえることで、スポーツによる地域活性化と、地域住民のコミュニティの場としてにぎわいを創出する。スケボーパークは、プロゾーン、アマチュアゾーンをセクション(構造物)の配置によって、緩やかにエリア分けすることによって、子どもたちがプロのプレイに刺激を受けながら練習し成長する環境をつくる。スケボー用品の販売・レンタル+カフェ営業を行う店舗を併設し、地域住民がはじめてもスケボーにチャレンジしやすい環境を整える。また、将来選手を目指すスケーターが運営を行うことで、訪れる人々に滑り方のアドバイスや情報共有ができコミュニケーションが生まれる。イベント広場としても機能し、セクションが配置された広々とした空間とパークの空中を横切るデッキを活用して、ストリートスポーツの大会や屋外ライブ、映画鑑賞会などを行うことが出来る。



ゾーニング
フラットな場所が多く初心者でも滑りやすい
アマチュアゾーン
プロゾーン
駐車場
カフェ
物販
WC
大きい起伏や階段などアロパティックなパフォーマンスが可能
コンクリートの打設範囲はプロゾーンに限定し、アマチュアゾーンはモジュール式を採用することで工事費削減を図る。裏の空地は最初は駐車場として活用する。利用者や運営者のニーズ、実態に合わせて、後からスケボーパークの増設など、変化できる余白を残しておく。



ペリストリアンデッキにつながる大階段には人々が腰かけのんびりと過ごす。建物への西日遮る役割も果たす
「プール」はアメリカの家庭用プールのように内部が滑らかなセクション。雨が降った後は水たまりができて遊び場となる
「フェープウォール」は大きな曲線を描くコンクリートのセクション。イベント時には観客席として利用される